

5. 復興に向けて

山田町ではこれまで、被災者の生活再建を最優先課題として、新たな宅地の整備と災害公営住宅の建設を急ぐとともに、被災した産業基盤施設の再生や、まちなか再生計画に基づく新しい中心市街地の形成など、生業や賑わいを取り戻すための様々な施策に、積極的に取り組んでまいりました。そして山田町復興計画における「再生期」の最終年を迎えた今、町内各地に整備された宅地では次々と住宅再建が進み、商工業者の経済活動も仮設から本設へ徐々にその拠点を移し始めるなど、復旧から再生へ向かう町の姿が目を追うごとにはっきりと目に見えてきています。

平成30年から32年の「発展期」には、町中心部の土地区画整理事業も完了し、再建を待つ全ての被災者のもとに住まいが供給され、三陸鉄道による宮古～釜石間の鉄路運行が再開されるなど、まちづくりは最終段階を迎えることとなりますが、今後は、市街地の再編が進むことによる新たなコミュニティの形成や公共交通の再編など、町が持続して発展していくために必要となる施策の展開はもちろんのこと、これまで進めてきた取り組みを検証し、新たに見えてきた課題を一つひとつ解決していくことも重要となります。

一方で、人口減少・少子高齢化、地域経済の衰退など、私たちを取り巻く環境は日々厳しさを増しております。また、昨今においては、被災地に対する世間の関心の希薄化を懸念する声が各方面から聞かれるようになりましたが、こういった状況であるからこそ、私たちは一日も早く東日本大震災からの復旧・復興を完遂させ、力強く発展していく姿を体現していかなければなりません。そしてなにより、次代を担う子どもたちに引き継がれるまちを創り上げていくことが、私たちの責務であることを忘れてはなりません。

そのような意味でこれからの4年間は、山田町の復興の達成に向けたまさに正念場であり、これまでよりもさらに、町民一人ひとりが、主体的に、そして積極的に取り組みに参加することが必要です。

魅力と活力に満ちた山田町を築き上げるため、これからも共に復興の歩みを進めていきましょう。